

相続・事業承継のコンサルタント、全国に増殖中!

養成講座修了生が
各地で
相続セミナー
相談会を実施

2014年の春から全国のFP向けに私石野と弊社取締役の大坪が始めた相続資産コンサルタント養成講座。半年に1度のペースで東京と大阪で開催すること12回。講座修了生は、北海道から沖縄まで既に700名を超えました。

また、2015年1月からは、同講座修了生を対象とした「相続資産コンサルティング研究会」を毎月開催。相続に関する知識やコンサルティング手法についての学びの場を設けています。

修了生の活躍も目覚ましいものがあり、大手ハウスメーカーや旅行代理店、百貨店や葬儀社、お寺や地方自治体が後押しする老人大学などで相続セミナーの講師として登壇する機会が各地で広がっています。

セミナー終了後に個別相談を希望する人の割合は、平均すると受講者の3割程度から半数を超えることもあり、通常に比べその比率はとて高く、内容のわかりやすさもさることながら、いかに相続に対して多くの方々の問題意識を持っているかが伺えます。個別相談では、「相続について具体的に何からどのように対策を始めたら良いかわからない」というものが多く、修了生たちも養成講座や研究会で培った知識ノウハウを駆使して、それぞれの

案件に対して真剣に向き合っているようです。

当初、私が掲げたビジョンとして、「相続でお困りの全国の方々に対して、その悩みを解消できる相続コンサルタントのコミュニティを全国組織で作っていき」というものがありました。

その想いを形にすべく2016年9月に一般社団法人相続資産コンサルタント協会を設立し、私が会長、大坪が理事長に就任しました。税理士・弁護士・司法書士・不動産鑑定士といった相続専門の士業の方々や不動産・金融業界をはじめとする相続問題に関わる各種企業や業界団体と連携し、相続相談の窓口となる存在を目指して参ります。



講座終了生の明千春さんによる講演
(九州地区の大手ハウスメーカー主催)



修了生にドクター向け相続・事業承継の講演をする弊社東京統括マネージャー小林論



講座終了生の寺畑誠二さん(左)による北陸地区百貨店主催セミナー報告。(東京研究会)



相続及び事業承継養成講座修了生と

さらに2016年夏からは、事業承継のコンサルティングノウハウを学ぶ講座を始動。相続とともに全国で事業承継問題に悩みを抱えている経営者への良き相談者となるような修了生コミュニティを拡大して参ります。

2017年は、私たちにとって大きな転換期に入る年だと考えています。

相続・事業承継にお悩みの方々、そして今まで通り資産形成や運用の話、ライフプランニングのご相談は、弊社にて承りますので、お気軽にご相談くださいませ。

(文責 石野)

ホンネで生きる!

2017年はどんな年になるでしょうか?

今年1年を占ううえで、昨年の大きな出来事を振り返ってみると、海外ではイギリスのEU離脱、アメリカ大統領選挙でのトランプ氏の勝利と大方の予想を覆す出来事が、国の行く末を決める場面で次々と起こりましたし、韓国では大統領のスキャンダルが何十万人というデモ集会に発展し、大統領自らの退陣を余儀なくされる事態に追い込まれました。

一方、日本国内で注目されたのは、豊洲市場の移転や東京五輪競技の開催地見直しなど、東京都政の問題ではありますが、日本国民に大きな関心をもたらしました。

これらに共通するのは、人々が今までの体制に対してNOと言って、ホンネの部分が見えてきたこと。逆に言うと、ホンネで語ると物事の収集がつかなくなるからタテマエで片づけておこうということが、まかり通らなくなってきた時代に向かいつつあるということなのかもしれません。そう考えると、自分のホンネに素直に向き合ってみるというのも重要なことのように思えてきます。

さて、新年にあたって、みなさんはどんなことに想いを巡らされるでしょうか?

一度、ご自身の本当にやりたいこと、すなわちホンネと向き合ってみることも良いかもしれませんね。

株式会社キーストーン・株式会社キーストーンFPコンサルタンツ 代表取締役 石野 毅



残したいもの第3位「自分の経験」、2位「教育」、1位は…

～キャンペーンご応募ありがとうございました～

昨年末に実施した「残したいものは何ですか?」キャンペーン。届いたエピソード一つひとつが弊社の「残したいもの」となりました。本当にありがとうございました。

「親(祖父母)からかけてもらったことばがずっと心に残っている」という方、両親が言葉にしなかった想いを「自分も同じことを子供にしてあげよう」と受け止めたというメッセージ。残してもらったものを「今でも重宝して使っています」「自分の子供にも使わせています」という内容や、「思い出」というのもたくさんいただきました。

また、「年齢を重ねるほどに、親に似ている部分があることに気づかされる」というお話などなど、紙面ではとてもご紹介しきれない、人情味あふれるエピソードをたくさん頂戴しました。

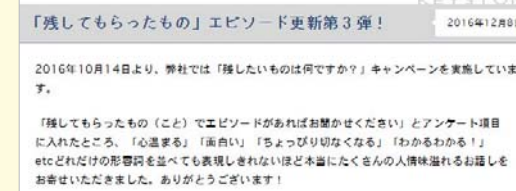
さて、表題の「残したいもの」第1位に輝いたのは「お金」でした。

「キャンペーンテーマは、『残したいものは何ですか?』で実施すること」。

私が50年後のスタッフに引き継ぎたいことです。

さあ、皆様のお子様、お孫様はどんなエピソードを送ってくださるでしょうか…

(文責:野田)



お寄せいただいた「残したいもの」エピソード。こちらでご紹介しています。
<http://www.kanameishi.com/blog/essay/2301.html>

お客様
紹介

医療法人社団悠和会様

～「医は仁術」という言葉を大切にしています～



理事長の鳥居秀平先生 神戸三宮の院内にて

今回、私がお紹介するのは「医療法人社団悠和会」様です。(以下、悠和会様)悠和会様は神戸三宮に「北野坂鳥居歯科医院」、東京麻布十番に「麻布十番歯科オーラルケア」の2院体制で理事長の鳥居秀平先生のもと、鳥居先生が教鞭をとられた東京医科歯科大学との強い繋がりから得られる、世界水準の最先端歯科医療を提供されています。神戸、麻布の両院とも大変機能的でコンパクトな佇まいですが、高度な医療機器が供えられており、まさに大学病院レベルの治療を受けることができます。鳥居先生を筆頭に治療にあられる先生方も若くて才能豊かな方々ばかり。それぞれが専門分野の第一線で活躍されています。両院とも明るく快活な職員の方々の対応も気持ちよく、医療に対する熱い情熱が院内にあふれています。

私と悠和会様のご縁は、第2の医院として麻布十番歯科オーラルケアを開院されるタイミングに保障の総合的な見直しをさせていただいて以来になります。今日ではご経営の問題全般について定期的にコンサルティングさせていただいています。理事長の

鳥居先生にお会いするたびに強く感銘を受けるのは医療に対する熱い思いのみならず、人生そのものに対する大変前向きな姿勢です。かくありたい!と思うこともしばしばです。最近の医療現場では患者さんに対するインフォームドコンセント(治療に対しての正しい情報を伝えたいという合意)が大変重要ですが、鳥居先生が患者さんにご説明されているご様子は端的かつ、明確。私もお客様のへプレゼンの際に実はこっそり参考にさせていただいています。

そんな鳥居先生に2017年、歯科領域の注目トピックスをお伺いしました。「2017年は保存修復領域、いわゆるつめもので注目すべき進展が見られるでしょう。当院ではもちろん、大学等の連携を行い、常に最新・最先端の歯科医療を提供して参りますので、ご期待ください。」歯科医療の最先端を歩まれる悠和会様。ご興味のある方は是非ホームページ等をご参考にお気軽にご相談ください。(文責:小林)

医療法人社団悠和会様ホームページ
<http://www.torii-dent.com/>



東京麻布十番の医院外観

「小林さんには月1回、経営全般についてご相談させていただいています。相談領域は財務、総務から趣味嗜好まで(笑)多岐になりますが、いつもシンプルで明確な回答をいただけるので心強いです。これからもよろしくお願いします!」

医療法人社団悠和会 理事長 鳥居 秀平

理事長似顔絵入りボトル



人生の
先輩に学ぶ

「働きたい」と電話したら、「採用は63歳までです」と言われました

～84歳 貴田康乃様 気持ちはまだまだ現役です～

「私ももうすぐ85歳になります。来年1月29日の国家試験に向けて頑張っています」。貴田康乃(トキダヤスノ)様から届いたキャンペーン用紙に書かれていました。

挑戦中の資格は、社会福祉士。専門学校の通信課程で2年間勉強されており、「分厚いテキストが17冊。提出必須のレポートは17編。試験も問題数が多くて、大変です…」

既に3つの資格(視覚障害者の)同行援護従業者、「ガイドヘルパー」、「2級ホームヘルパー」を取得されており、「もっと上の資格を目指したい」と社会福祉士の勉強を始められたそうです。



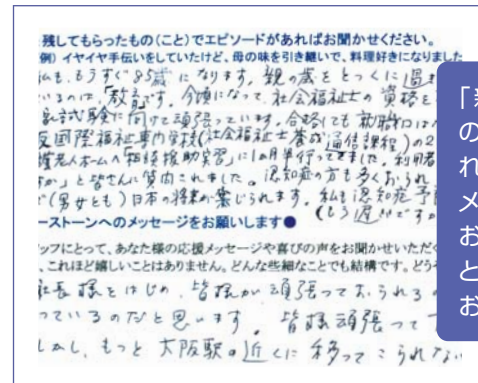
貴田様から相続のご相談をいただいていた以来、石野が継続的にお手伝いしています。クリスマスイルミネーション輝く街中にて、2人でパチリ。

科目には1ヶ月半の「相談援助実習」もありました。これは福祉施設で入居者のお世話や掃除などを行うもの。実習時によく聞かれたのが「貴女は本当に実習生ですか?」。入居者には認知症の方も多く「それはもう、大変でしたよ」。そして「とても貴重な体験をさせていただきました」。

「勉強や実習は大変」とおっしゃる一方で「これまで知らなかったこと、やったことのないことばかり!」

「こういう仕事をしたい」と思われた貴田様。市の窓口で電話し「就職したい」とお話しされたところ、「採用は63歳までです」と言われたそうで、「働けないなら、勉強しなければよかったって思いましたよ」と少し悔しそうな表情でお話しされたのが印象的でした。

施設で目の当たりにしたもう1つの現実には職員の方々



「親に感謝しているのは教育です」と書かれたキャンペーンメッセージに、「直接お話しを聞きたい!」とインタビューをお願いしました。

のこと。若い男性や女性達が忙しく働き、食事も近くのコンビニで買って来たものでさっさと済ませてしまう。「栄養は摂れているのか、体は大丈夫なのかと心配です。」そして、「若い人がお年寄りの世話に追われている。日本の将来が案じられます」。

貴田様の学びの出発点をご両親。女性教育に対する認識が低い時代に「あなたの好きなようにしなさい」と大学まで行かせてくださったそうです。「教育については、本当に親に感謝しています」と何度もおっしゃっていました。

最後にキーストーンに望むことをお聞きしました。「高齢者に対しては、難しい話は必要ありません。話はわかりやすく。文字は大きく。」

ご自宅の最寄駅で行なったインタビューには「自転車で来ました」。

生き方も日常も自分の足でしっかり歩いていらっしゃる貴田様のお言葉を受け止め、キーストーンも負けずにしっかり歩いてまいります。(文責:野田)



2015年1月に開催した弊社セミナーにもご参加くださいました。その日がお誕生日だったので、心ばかりのプレゼント♪